がっこう発

強制せず、自ら学ぶ力 育てる

ラーンネット・グローバルスクール

六甲山頂に近く、人工スキー場がすぐそばにある標高約850㍍の山上に、フリースクール「ラーンネット・グローバルスクール(LGS)」がある。行政の認可を受けない同校は、子どもの「自ら学ぶ力」を育てる教育をめざす。以前は銀行の保養所だったという校舎を訪ねた。

小学5年～中学2年の生徒7人が机に向かい、黙々と学習している。分数の割り算や漢字の書き取りなど、それぞれで課題を決めて学ぶ「マイスタディー」の時間だ。

手を挙げた生徒に、指導役の友田昌吾さん(27)が近づく。一方的に教える「先生」ではなく、生徒が道を選ぶのを案内する「ナビゲーター」と呼ばれる。「よく考えてみて。こっちに9をかけて、そっちにも…」。一つ終わると、また次の生徒が質問する。

石野誠也君(13)は「公立学校だったらみんな同じペースで進まないといけないけど、自分で決めた目標なら頑張れる」。友田さんは「一人ひとりが知識を吸収していく様子がよく分かる。子どもたちの質問の多さに驚かされます」と話す。

LGSは96年、代表を務める炭谷俊樹さん(47)＝芦屋市＝が妻の由加里さん(44)らと設立した。コンサルティング会社に勤務していた炭谷さんのデンマークでの2年間の生活がきっかけになった。引っ込み思案だった娘を幼稚園に通わせた時、先生は娘を周囲に無理に合わせることなく「観察力の優れた子ですね」と評価してくれた。偏差値や肩書で人を比べず、個人の価値観を大切にする社会にも感銘を受けたという。

「マイスタディー」の授業では、生徒それぞれが違った課題に取り組む。ナビゲーターの友田昌吾さん（中央）はすぐに答えを教えず、考えるためのアドバイスに徹する＝神戸市灘区で

帰国後、炭谷さんは「自分の子どもを入れたい学校をつくろう」と会社を辞め、LGSの運営を開始。現在は幼児から中学生まで25人が通う。

強制はせず、子ども自身の学びたい気持ちを尊重するのが大原則だ。科目に対して苦手意識を持たせないため、テストを一切しないのもデンマーク式だという。「化石」「植村直己」などのテーマを自分で決めて調べ、発表する「プロジェクト」の授業もある。グループで取り組む「テーマ学習」では、秋に「マスコミと情報」を題材に、報道被害についてのDVDを見たり、取材して新聞をつくったりした。

中1の男子生徒(12)は「身だしなみや持ち物を細かく縛られなくなって、公立にいたころよりのびのびしていると両親に言われる」と話す。生徒はLGSを卒業後、私立高校などに進学している。

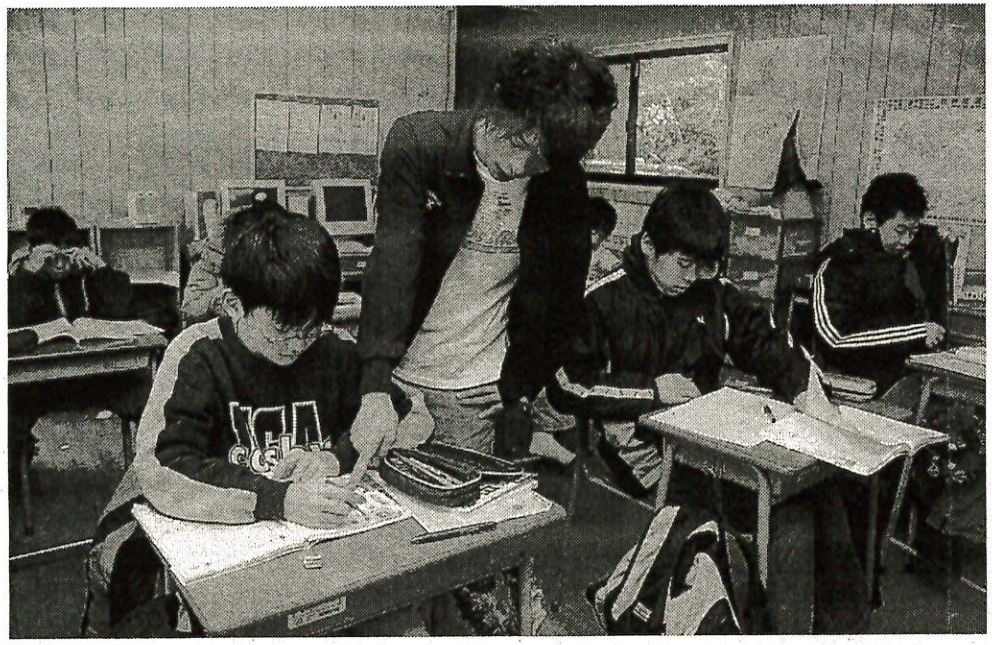
炭谷さんは「いろいろな方向から光を当てれば、子どもが本来持っている能力は必ず伸びる」という。「偏差値を重視し、一面的に評価しがちな日本の教育に新たな流れをつくりたい。子どもたちに自分の人生を選び取る力をつけてほしい」と話す。

（根岸拓朗）

静かな山の上、勉強に集中

中学1年　吉岡寿君(12)

小学6年の初めからLGSに通い始めました。山の上なので、とても静かで勉強に集中できます。公立学校と違って、先生代わりのナビゲーターと1対1でたくさん話せるのもいいところですね。

周りは自然がいっぱい。冬は寒くて、朝に冷え切ったロッジに入るのがつらいです。でも、夏は車もなく人もいないし、みんなであたりを走り回っています。木の上にツリーハウスを組み立てる授業があって、ボーイスカウトの経験を生かして楽しんでいます。

公立学校には、修学旅行などの催しにだけ参加しています。公立の友達と話すと、みんな勉強にたくさん時間をかけているので、自分も頑張ろうと思います。将来は、聴く人に安らぎを感じてもらえるようなピアニストになりたいです。